

## 令和 7 年度 北九州市立 松ヶ江中 スクールプラン

令和 7 年度 学校教育目標 校訓「誠実・勤勉・礼儀」にのっとり、思いやりの心を持ち、新たな価値創造に挑戦する中で、母校への誇りをはぐくむ生徒の育成

本年度の重点			年度末評価	
	重点目標 及び 指標(成果目標)		評価	成果目標の検証
子どもの学び 「学びの転換」 に関すること	重点目標	学びの主体者としての子どもの育成	A	○研究授業を重ねる中、「協働的な学び」、「個別最適な学び」を意図した授業が普段から見れるようになった。 ◆「AI型学習アプリ」を活用した家庭学習課題の効果検証を行った結果、紙ベースの課題だと空欄をただ埋めるという作業を行っていた生徒が多かったことが明らかになった。今後は、必然的に自力で課題を解かなければならない「AI型学習アプリ」の活用を促進していきたい。
	(成果目標) 指標	<学校生活アンケート> ◆「『どうすればできるだろう』『なぜだろう』などの問いを持ち、『おもしろそう』『やってみよう』と主体的に学習することができた」と、肯定的な回答をした生徒の割合(授業改善)[80%以上]		
子どもの心の育ち 「居場所づくり」 に関すること	重点目標	前向きに挑戦しようとする子どもの育成	A	○体育大会、合唱コンクール、文化学習発表会、人権週間の取組、部落問題学習、LGBTQに関する講演会等を通して、生徒が「活躍した」「認められた」と実感できる取組を実施できた。 ◆令和8年度からの二学期制にともない、各行事の実施時期が変更となる。各行事の準備期間等、効率的・効果的な行事運営の仕組みを再構築する必要がある。
	(成果目標) 指標	<学校生活アンケート> ◆「嫌だと感じるようなことや、難しいと感じるようなことがあっても、あきらめることなく、『よし!やってみよう』と前向きに挑戦することができた」と、肯定的な回答をした生徒の割合(自尊心を高める取組)[90%以上]		
業務改善 「教職員のウェルビーイング」 に関すること	重点目標	働きやすい職場づくり	B	○自動採点システムや連絡ノートのICT化等の教育DXの促進が業務改善につながっている。 ○生徒指導にかかわる問題事象は年々減少しており、そのために在校時間が長くなることは減少している。 ◆多くの職員が、毎月の時間外在校時間が45時間を超えている。休憩時間の確保も十分でなく、労働基準法を遵守できる仕組みづくりを構築していきたい。
	(成果目標) 指標	◆一か月の時間外勤務が平均45時間以下(年間360時間以下)の職員の割合[100%] ◆年間の年次休暇取得12日以上[100%]		
小中一貫教育 に関すること	重点目標	小中一貫の教育課題の解決	B	○「あいさつ」「黙働」については、ある程度の習慣化ができてきている。 ◆「あいさつ」については、同様の指導はしているものの学年間の差が見られる。 ◎今後、ICT能力に長けた新入生の入学が期待される。一層高いレベルの指導内容を工夫していく必要がある。
	(成果目標) 指標	<学校生活アンケート> ◆「進んであいさつができて」と、肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上] ◆「学校でのそじをがんばっている」と、肯定的な回答をした生徒の割合[90%以上]		

「学校運営協議会委員」等  
からの意見を記入  
(一部抜粋)

○学校評価アンケートの質問I「楽しく学校へ通っている」の評価がとても高いことは素晴らしい。○中学校区共通の「あいさつ」「黙働」について、職員で共通理解を図り、ベクトルをそろえた取組は効果的であったと思う。○積極的にICT活用に取り組み、その成果を出していることが素晴らしい。○ICTの活用のメリット、デメリットを考慮しながら、子どもにとっても職員にとっても良い意味での時間短縮につながればよい。○部活動の地域展開については、保護者・地域がもっと協力していく必要がある。○部活動の地域展開については、教員の働き方改革や子どもたちの技術向上にも良い影響が出ることを理解できた。一方、具体的にどうなるか(実際にどのような地域クラブができるのか等)が見えてこないのが課題である。